

## 《 北海道教育委員会教育長賞 》

噴水は悲しいときに感情の起伏のようにしぼんでくれない

北海道旭川東高等学校

3年

木村杏香

### 【講評】

噴水を感情の起伏にたとえた点が光っている。悲しい時は気持ちが沈みしぼんでしまう。いま、目の前の噴水は勢いを増して昇ってゆく。感情と裏腹の現実を巧みに詠った所が優れていて、個性的な詠い方である。若者の柔軟だが、少し危うい心理を巧くまとめた所が良い。

## 《 北海道立文学館賞 》

通学路仲間の絶えた秋桜に<sup>りっか</sup>吊いの六花静かに降り積む

札幌聖心女子学院中学校

3年

瀧田小麦

### 【講評】

巧い歌だ。秋桜に「<sup>コスモス</sup>吊いの<sup>りっか</sup>六花」が降り注いでいる。秋のほろびてゆく花々の命、それが今まで仲間とはしゃいでいた通学路に誰も居なくなった事と、符合してゆく。瀧田さんは昨年にも増して感性の冴えが見事で、表現に厚みが増した。引き続き良い歌作りに挑戦して欲しい。

## 《 北海道歌人会賞 》

放課後は君とならんで帰る道オレンジに染まる君と流水

網走市立第二中学校

2年

益子玲七

### 【講評】

初々しい恋の歌だ。「放課後」とことわった所が中学生の生活を反映して自然だ。この道は仲の良い君といつも連れだって帰る嬉しい道だ。ある日の夕暮れ、オレンジに染まった君とその先にある流水。皆が優しく、美しい景色の中に輝いている。浮き浮きした喜びを巧く詠っている。

## 《 北海道新聞社賞 》

ザリガニがだっ走っていて部屋見たら音量マックス母さわいでる

札幌市立伏見小学校

5年

山口楽詞

### 【講評】

可愛がっていたザリガニが水槽から逃げてしまった。脱走だ！一大事！と思って部屋を見る。ザリガニが動き回るのを見てお母さんが大声で叫んでいる。「早くつかまえてえー」叫ぶお母さんの姿をユーモラスにとらえた楽しい作品だ。臨場感あふれる活き活きとした歌になった。

## 《 優秀賞 》

### 小学一～三年生の部

うちゅうまでとんだ花火のむこうにねおじさんのすむサッポロがある

別海町立別海中央小学校 2年 樽山元気

#### 【講評】

独特な感じ方が目立った作品である。特に「花火のむこうの」宇宙まで飛んで行った先に大好きなおじさんが住んでいる札幌があるんだ、と空を見上げて詠った所がユニークであり、別海から遙か遠くの札幌に思いを込めて詠っている所も良い。

水族館カニの親子が組み体そう見てよ！すごいよ！ピースもしてる！

北海道教育大学附属札幌小学校 3年 亀山寧々

#### 【講評】

素直な子どもらしい感じ方で詠っている所が良い。水族館に家族で見学に行くと、蟹の親子も組体操をしている。しかも自分に向かってピースをしている。ほほえましい家族でのワンショットを、飾らずにそのままの言葉で詠った所がすぐれている。

### 小学四～六年生の部

つよい風あの雲たちをそうじして流星ぐんを見たいから

北海道教育大学附属旭川小学校 4年 上野未悠

#### 【講評】

流星群が夜空を彩る日、雲が覆ってしまっていて、せっかくの流星群が見えない。一大ページントが台無しだ。風よ、強い風よ、あの雲たちを一掃しておくれ、と呼びかけている。素直な気持ちを飾らずに心そのままに詠ったのは、とても良かった。そして独特な感じ方だ。

むぎばたけ風がふいたらゆれましたとてもきれいな金のじゅうたん

北海道教育大学附属札幌小学校 4年 広本 幸

#### 【講評】

感じ方に柔らかかでやさしい心が息づいている。麦畑を見ていたら、一瞬、風が吹き過ぎてゆく。サーッと揺れる麦の穂先がなびく。まるで「金のじゅうたん」になった様だ。日の光を受けて明るく広い麦畑に思わず見とれてしまう様子が良く表現出来た。

### 中学生の部

夏の陽が澄んだ水面に輝きて天塩の川は海へと注ぐ

札幌市立日章中学校 1年 佐々木克哉

#### 【講評】

道北を流れる雄大な、そして清澄な天塩川。未だに人に荒らされていない川に畏敬にも似た気持ちを持って詠っている。夏の日差しが水面をキラキラ輝かせている。堂々と流れてついには日本海へ注ぐ川。大らかな、豊かな気持ちとなり、天塩の川に向かっている。良く見て詠った歌だ。

出荷され荷台につまめた牛たちの瞳に写る儂い夕日

立命館慶祥中学校

1年

根岸建人

【講評】

牛の瞳に着目した感性が豊かな作品である。その牛らは今、まさに出荷されようとして荷台に誘導されているのだ。悲しくうるんで、訴えかけている牛たちの目。夕べの牧場での光景は悲しさもたたえている。特に結句の「儂い夕日」が巧みで印象的な表現となっている。

高校生の部

目の前のあなたへ使うスマートホン声に出さずに気持ち伝える

北海道小樽工業高等学校

2年

原田悠佑

【講評】

目の前の「あなた」になかなか気持ちを告白できない。拒否されたら耐えられない。スマートホンのメールで伝えたら、思い切り伝えられる。頼りない態度も見破られたくない。複雑な思いが交錯する中、思い切って気持ちを伝えようとしていて何ともいじらしい歌である。

夕陽差す電車に揺られ君想う視線の先に海が重なる

北海道龍谷学園双葉高等学校

1年

石田日菜

【講評】

君への気持ちが電車に揺られていても募って来る。ふと見ると車窓には大きく海が映り始めた。その見えて来た海に君が重なる。「君想う視線の先」の描写が良い。気持ちに流されず海を効果的に配置することで、君への想いの一途さが表現されて良い歌になった。

## 《 佳作 》

小学一～三年生の部

わがやではごはんのときにテレビけすかぞくみんなでのしいじかん

札幌市立苗穂小学校

3年

越前さくら

【講評】

何と素晴らしい家庭の習慣であろうか。現在テレビを消して食事をする家庭は少ないのではなかろうか。テレビを消すことで生まれる家族の会話が聞こえてくるようである。特に下の句に子供らしい素直な気持ちが出ている。

浜当日あついな浜あちちち白なみのまれせきがゴホゴホ

札幌市立伏見小学校

3年

伊藤理央

【講評】

「浜当日」は焼津市にある地名である。海水浴場があり、夏休みにそこへ海水浴に出かけたのであろう。「あちちち」と「ゴホゴホ」の擬音語が面白い。暑い夏の海水浴の情景をユーモラスに表現している。熱い砂浜と白なみの対比が生きている。

ちきゅうのまわるはやさはやいとねふくかぜつよくなるんだきっと

新ひだか町立高静小学校

2年

成田旺介

【講評】

地球が自転していることを知って、その回る速度が速いと風も強くなると想像する。その発想力が面白い。このような壮大な想像力をもっていることはきっと心も大きな証拠である。「きっと」と結んだところも子供らしくて良い。

小学四～六年生の部

こんぶほしはまいっぱいがチョコみたいなんだかととてもおいしそうだな

えりも町立東洋小学校

4年

神田央海

【講評】

子供らしい発想が面白い。浜全体に昆布が干されている。いつもよく見る風景だが、昆布の色からチョコレートを連想したのである。下の句の素直な表現が生きている。作者はきっとチョコレートが好きなのであろう。

なみの音貝をかた手に耳すませあの夏の日の思い出耳に

札幌市立栄南小学校

5年

法邑弥奈

【講評】

夏の浜辺で拾った貝殻なのであろう。その貝から波の音を回想しているのである。その波の音は誰と聞いたのであろうか。それは大切に心に残しておきたい音なのであろう。それを「思い出耳に」と表現したところが優れている。

夏休み水ぞく館でイルカショーすごいジャンプでわたしもとんだ

函館市立中央小学校

4年

小林さら

【講評】

夏休みに水族館のイルカショーを見ての作品。イルカの豪快なジャンプに「わたしもとんだ」と表現したところが優れている。子供の素直な気持ちがそのままことばとして表現されたものであろう。動きを感じる作品だ。

湿原でゆうゆう飛ぶよオジロワシ観光客を見おろしながら

室蘭市立大沢小学校

6年

二瓶 諒

【講評】

湿原の上空をオジロワシがゆうゆうと飛んでいるのを見て感動したのである。広大な湿原の上を飛ぶオジロワシに自分を投影しているのであろう。そして自分も空を飛んでいる気持ちになっているのである。魅力的な作品である。

中学生の部

なでられる潮の香りにふり向くと心うたれる群青の色

小樽市立朝里中学校

2年

浜田穂香

【講評】

潮の香りが頬をなでてゆく浜辺のロマンチックな雰囲気がよく出ている。海を見ると心が洗われるような気持ちになることがある。海の色が青く澄んでいればいるほど切なくなる。そんな中学生の心を巧みに表現している。

公園の陰にたたずむ奏楽堂我を見つめる滝廉太郎

札幌市立白石中学校

3年

田村大和

【講評】

修学旅行で訪れたのであろうか。東京の上野公園にある旧東京音楽学校の奏楽堂を詠んだものである。滝廉太郎の銅像が我を見つめていると表現する巧みな歌である。この銅像は立像ではなく、椅子に座って正面を向いているので自分を見つめているように感じたのであろう。

墓参り祖父の背中を流すよにみがく墓石力が入る

札幌市立平岡緑中学校

2年

外圍 翔

【講評】

祖父の墓参りをすることで祖父の姿が甦って来るのである。「背中を流すよに」と具体的な動作があることで祖父に対する思いが良く出ている。生前に祖父の背中を実際に流したことがあるのだろう。「力が入る」に気持ちがよく出ている。

帰り道二人で並び近づく私の鼓動君に聞こえる

別海町立別海中央中学校

2年

田中那奈子

【講評】

学校の帰りであろうか。道で出会った君への淡い恋心を表現していて新鮮である。君に近づく私の胸の鼓動が伝わるようだと言っている。思春期の微妙な心の動きを巧みに表現して魅力的である。

「似合うね」と貴方が笑みをこぼすだけ私の浴衣蝶舞い踊る

立命館慶祥中学校

2年

松沢遥愛

【講評】

思春期の恋心を表現して巧みである。普段あまり着ることのない浴衣を着て「似合うね」と言われた時の気持ちを「私の浴衣蝶舞い踊る」と非常に個性的に表現している。大人に近づきつつある微妙な心の動きが感じられて美しい。

### 高校生の部

くつひもを結んで顔を上げた時夏がきたよと知らせる花火

北海道江別高等学校

2年

富永穂乃花

【講評】

靴ひもを結ぶという日常の何気ない行動と夏の花火との対照が良くマッチしている。ふと顔をあげたとき夜空に広がる花火に夏を感じたのである。その一瞬を捉え高校生らしい表現になっている。

蜘蛛の巣が雨の雫をつかまえる八つの目で見ると ひやくしきめがね 百色眼鏡

北海道小樽工業高等学校

2年

濱田尚哉

【講評】

蜘蛛は頭胸部に八個の単眼を持っている。また巣に散る雨粒は、周囲を映し込みまるで小さな百色眼鏡（万華鏡）のようだ。「蜘蛛の巣が雨の雫をつかまえる」という独特の感性がこの作品を特徴づけている。雨の雫が陽を受けて七色に輝いている様子が浮かんでくる作品である。

ヘッドフォン外した時のしずかさにどこか似ている恋のおわりは  
北海道富良野高等学校 3年 河田奏美

【講評】

「ヘッドフォン外した時のしずかさ」と高校生らしい具体的な表現が生きている。さらに下の句では「どこか似ている恋のおわりは」とやや大人びた表現であるが、そこが新鮮で上の句とマッチしている。

夕暮れの水面に漂う鳥たちは海の濁りを悲しんでなく  
北海道龍谷学園双葉高等学校 1年 阿部勇人

【講評】

夕暮れの海の上を漂う鳥を見ての作品だが、「海の濁りを悲しんでなく」とやや背伸びをした表現になっているが、濁る海に批判的な気持ちが込められているのであろう。高校生らしい感性を感じる作品である。

## 《 入選 》

### 小学一～三年生の部

夏の夜キャンプへ行って虫さされかきすぎたからよけいかゆいな  
江別市立上江別小学校 3年 三川瑠衣

【講評】

キャンプで虫に刺された体験を作品にしている面白い。下の句の「かきすぎたからよけいかゆいな」も子供らしい表現で好感を持った。こうした体験を通して子供は成長していくのである。

三びきのカニさん海へさようならおうちにかえってゆっくり休んで  
北広島市立緑ヶ丘小学校 3年 三浦花音

【講評】

つかまえたカニを海へ返す子供らしい捉え方で好感が持てる。特に下の句の「おうちにかえってゆっくり休んで」の素直な表現がかわいらしい。

あついなつぼくのいもうとくっついてからだもこころもあたたかくなる  
札幌市立幌東小学校 2年 中山來翔

【講評】

暑い日には汗ばんで誰にもくっついてほしくないが、妹がくっつくのは苦にならない。それどころか心も温かくなるというのである。かわいい妹を短歌にする試みが良い。ほのぼのとした優しさを感じる作品である。

空にまうにじのような花火のこ幼なじみと海辺でみたよ

札幌市立東札幌小学校

2年

米倉佳梨

【講評】

「幼なじみ」は小学二年生らしくない表現である。背伸びをしたがる時期なのかもしれない。上の句の「にじのような花火のこ」とは何をさしているのだろうか。それが分かるともっとよかったと思う。

がんばれと、えがおをくれたおじいちゃん見守っていてね空からぼくを

札幌市立東山小学校

3年

川崎 奏

【講評】

祖父の存在は孫にとって大切である。いつも笑顔で優しく見守ってくれたおじいちゃんが亡くなり、折に触れおじいちゃんの顔が甦って来るのである。「見守っていてね空からぼくを」に気持ちが良く出ている。

暑い日にみんな集まり練習だきついけれども笑顔わすれず

島牧村立島牧小学校

3年

木村愛菜

【講評】

夏の暑い日にみんなで集まっての練習である。「きついけれども笑顔わすれず」に小学生らしい気持ちがよく出ている。何の練習なのかが分かるように表現できたらもっと良かったと思う。

雪がっせんつめたい玉にくらいつくいたいけれども元気いっぱい

島牧村立島牧小学校

3年

西海那旺

【講評】

雪合戦の事を思い出して作ったのであろう。「つめたい玉にくらいつく」の表現が子供らしくて新鮮である。雪合戦の体験を短歌にしようとしたところが良い。

夏休み花火大会きれいだなせんこう花火もまたやりたいな

島牧村立島牧小学校

3年

境 桃那

【講評】

夏休みになった解放感がよく出ている。花火大会に行って花火を見るのもいいが、実際に自分たちでする「せんこう花火もまたやりたいな」という子供らしい表現が良い。屈託のない子供の心がよく出ている作品である。

夏の海夕やけきらきらきれいだな夕日がしずめばきれいなせいざ

島牧村立島牧小学校

3年

佐藤夢美

【講評】

夏の海が夕焼けの色を反射してきらきら光る様子を捉え素直に表現している。さらに夕日が沈んだ後の夜の空には星座がきれいだろうなどと想像しているところが子供らしい。

さっぽろへお出かけへ行きたのしいな帰りはぐっすり車の中で

島牧村立島牧小学校

3年

浜野寧々

【講評】

車に乗って札幌へのお出かけは、作者にとって楽しみの一つなのだ。小学生らしい素直な作品である。「帰りはぐっすり車の中で」と表現したところがほほえましい。

だがしやでいっぱい買って一日で全部食べきりお金はゼロだ

伊達市立東小学校

3年

松井月良

【講評】

今は少なくなった駄菓子屋は子供にとって魅力的で心をくすぐる場所である。持っていたお金を全部つぎ込んでお菓子を買い食べてしまったのである。「お金はゼロだ」が面白い。

まんまるだ今日の空はまん月だまぶしいくらいひかっているよ

富良野市立東小学校

2年

中田愛菜

【講評】

小学生らしい素直な表現で、感じたことを感じたままに作品化している。初句に「まんまるだ」ともってきたのも効いている。満月を見て「まぶしいくらいひかっているよ」と誰かに語り掛けている表現も良い。

夏の夜ふとんに入るとはじまるよキリキリギシギシリリリリ虫たちの音楽会

室蘭市立知利別小学校

3年

宮西希優

【講評】

虫の鳴き声を聞いての作品。「ふとんに入るとはじまるよ」が子供らしくて好感が持てる。虫の鳴き声の擬音語がややしつこいが虫たちの音楽会と捉えたところがこの作品の良いところである。

夜の海光るときれいふしぎだな夏一番のイルミネーション

森町立さわら小学校

2年

工藤佑紀奈

【講評】

月の光の反射で海が光っているのであろう。なんにでも疑問を持ちたがる子供の表現として新鮮である。「夏一番のイルミネーション」の表現が面白い。作者にとっての新しい発見だったのであろう。

どんなあじ？はじめてのんだラムネはねあたまのどにかみなりおちた

利尻町立沓形小学校

2年

西島一樹

【講評】

初めてラムネを飲んだ時の体験を子供らしく表現している。「どんなあじ？」と最初に持ってきたのも効いている。「あたまのどにかみなりおちた」はややオーバーな表現であるが面白い。

#### 小学四～六年生の部

夏休みプールに映画通いつめ遊んでばかりドリルまっ白

北見市立北光小学校

6年

小見山理恩

【講評】

夏休みも残り少なくなった焦りがよく伝わって来る作品。「プールに映画」と具体的に出し



ているのも背景がはっきりして良いと思った。「ドリルまっ白」がこの歌の中で一番良い表現となっている。

クリオネは冷たい海のプリンセスフワフワ泳ぐと神秘的  
北見市立北光小学校 6年 谷口満帆

【講評】

流氷の冷たい海のクリオネを、「プリンセス」ととらえた所が面白い。さらにその「プリンセス」から「神秘的」と無理なく続いて、良い歌となっている。

かあさんの手作り料理おいしいな食べたとたんにはほっぺが落ちる  
札幌市立菊水小学校 6年 森端洗成

【講評】

料理の上手なお母さんなのだろう。下の句はややオーバーな表現だが、上の句を受けて、うまくおさまっている。どの料理も好きだろうが、とくに作者の好きな料理をあげても良いと思った。

ゲームほしい母にねだるが買いませんいっしゅんで終わる親子の会話  
札幌市立北白石小学校 6年 清水 翔

【講評】

ムダな言葉がなく、たたみかけるように歌っていて、その場の様子がよく伝わってくる。下の句の描写も冷静にとらえている所が、ユーモラスでもある。

夏休み宿題せかすママの声どこか似ている庭で鳴くセミ  
札幌市立東山小学校 5年 川崎はな

【講評】

宿題をせかす母親の声と、庭で鳴くセミの声をうまく結びつけた短歌になった。ママには少し気の毒だが、組み合わせがユーモラスにマッチして成功している。

先生は心も体も大きくて耳にはペンで首にはタオル  
札幌市立伏見小学校 5年 今村天音

【講評】

担任の先生だろうか。先生の人柄や様子をていねいに短歌にしている。とくに下の句の具体的な描写が実に効いている。先生が大好きでたまらないのがよくわかり、良い歌になった。

ふうりんとかぜがいっしょにうたってる気づけば秋風急げ宿題  
札幌市立円山小学校 6年 佐々木和

【講評】

風鈴を揺らす秋風に、夏休みの終りが近いことを感じての一首。上の句の、のどかな様子から一転して、下の句の焦りの表現と、展開も面白く、巧みな作品となった。

雨音と共に感じる冷たさも誰かといればぬくもり感じる  
島牧村立島牧小学校 6年 庄司真緒

【講評】

雨の音は時には冷たく、寒く感じることもあるが、誰か、それが、気や心を許せるもの者と共にいれば、温もりさえ感じるという歌。人の心理の深い所まで、よく短歌にしている。

菜の花に、もんしろちょうが、やって来て、はちと一緒に仲良くランチ  
根室市立海星小学校 4年 廣島晴貴

【講評】

菜の花の蜜を吸っている蜂の所に、紋白蝶が来て、それがちょうど仲良くランチをしているようだと言っている。「ランチ」ととらえた所が、この歌の成功の原因であろう。

港祭りおどる練習おわったら冷たいアイスでみんなが笑顔  
函館市立中央小学校 4年 広島陽月

【講評】

港祭りのおどりに出るための練習が、暑い昼間にあったのだろう。終わるとアイスが配られ、皆も笑顔になったという歌である。下の句で、何かホッとさせられる歌である。

すいか割り「右だ左」と叫ぶ声「たたけ！」と聞こえ地面一撃  
日高町立里平小学校 6年 蟹谷はるか

【講評】

すいか割りの様子がとてもよく伝わって、その場にいるような感じにさせられる歌になっている。とくに「右だ左だ」「たたけ！」の言葉が上手に使われて生きていると感じた。

せんぷうきアーといったらへんな声うちゅう人がどこかにいるぞ！！  
平取町立平取小学校 4年 水野優希

【講評】

扇風機に向かって声を出したら、宇宙人のような声だったということだろう。下の句の「うちゅう人がどこかにいるぞ！！」でまとめている所が面白く、成功している。

言わせてね照れくさいけど伝えたい大好きな母ありがとう母  
富良野市立東小学校 4年 中田來愛

【講評】

中田さんのお母さんに対する気持ちが、この歌全体から溢れています。「照れくさいけど伝えたい」がよく生きた言葉になりました。お母さんに気持ちが伝わってよかったですね。

短歌とはステキなリズムでできている人それぞれの想いをのせて  
北海道教育大学附属札幌小学校 4年 岩野 葵

【講評】

五七五・七七の短歌のリズムを「ステキなリズム」と言い、それに「人それぞれの想いを」

のせるということにより、「ステキ」な短歌ができると言いたいのだろう。この歌もなかなか素敵ですよ。

ももいろのえがおがあふれ入学式やさしい心でむかえてあげる

羅臼町立羅臼小学校

4年

池田ゆきは

【講評】

入学式の日、在校生も新入生も頬が紅潮するほど嬉しいのだろう。それが「ももいろのえがおがあふれ」と、すぐれた表現となっている。下の句も素直で良い。

### 中学生の部

背の高い向日葵畑少年が追いつくように広げる雨傘

旭川市立光陽中学校

2年

中川弥乃

【講評】

珍しい場面をよく一首にまとめあげた作品。少年より背の高い向日葵畑の中、広げた雨傘が、向日葵に追いつくようだと言うのである。少年、向日葵、雨傘を巧みに配置していて感心した。

僕の声花火の音がさらってく君に届かぬ二文字の言葉

枝幸町立歌登中学校

2年

政木吾実

【講評】

夏の花火大会での作。内容のよくわかる素直な歌である。「花火の音がさらってく」の二句目三句目の表現が優れている。「二文字の言葉」が届く日を祈りたい。

星たちは涙のように流れゆく多くの人の想いをのせて

置戸町立置戸中学校

2年

後藤優佳

【講評】

夜空の流れ星は、多くの人の想いをのせた涙のようだと歌っている。「星たちは涙のように流れゆく」の上の句の発想が面白く、良い表現になっている。

天高く空気ゆるがせ花開く夏の終わりの打ち上げ花火

釧路市立春採中学校

2年

小林亮太

【講評】

写生がていねいで、夏の終わりの花火の哀しさが感じられる作になっている。「空気ゆるがせ花開く」は優れた写生で、素直に感じ取っているのが良い。

みずうみにおちてく夕日眺めつつ夏のおわりを目にやきつける

釧路市立春採中学校

2年

野澤優花

【講評】

気負わずに自分の行動を表現していて、情感のある歌になった。「目にやきつける」が効果的な表現になっている。

君といた暑い真夏に熱中症僕はあなたにねっちゅうしよう  
札幌市立札幌中学校 2年 大久保麗香

【講評】

「熱中症」と「ねっちゅうしよう」をうまくかけ合わせて、ユーモラスに仕上がった作品。作者は女性だが、男性の立場で歌っていて成功している。

夕焼を背中に置いた湖が僕の心に夏を届ける  
札幌市立白石中学校 2年 伊藤寛樹

【講評】

表現全体がよく工夫されている歌である。とくに上の句の「夕やけを背中に置いた湖」はすぐれた表現で感心した。この上の句がごく自然に下の句とつながっていて格調の高い一首になった。

巻きもどし過ぎ去った日々呼びかえせ二泊三日の我らのアルバム  
札幌市立白石中学校 3年 大橋知弥

【講評】

修学旅行であろう。中学校生活の最大の行事で数々の思い出ができた、夢のように過ぎた二泊三日を巻きもどきたいと歌っている。上の句の直接的な表現が効いている。

かえる鳴く田んぼに足入れ田植えする元気に育ておれの米たち  
札幌市立西野中学校 2年 小玉遥斗

【講評】

実際に田植えをした時の経験であろう。それだからこそ、下の句の「元気の育ておれの米たち」という愛情が湧くのだろう。とくに「おれの米たち」の「おれ」がたいへん良い。

いつの日か見た夕やけがまぶしくてそっと目を閉じまぶたで感じる  
士別市立上士別中学校 2年 高橋希実

【講評】

まぶしかった「夕やけ」はきっと、好きな人と見た思い出なのであろう。その思い出を「そっと目を閉じまぶたで感じる」のである。切ない気持ちがよく表現されている。

雲ゆきがあやしくなると身をかまえ親のイナズマすばやくよけよ  
苫小牧市立青翔中学校 2年 青木智志

【講評】

親の雷が落ちる前の身がまえについて歌にしている。ユーモラスで面白味のある歌。下の句の「親のイナズマすばやくよけよ」がよく効いている。

一歩ずつ君にひかれる心とはシンクロしない私の行動  
別海町立別海中央中学校 2年 石渡由莉

【講評】

君に対する心と行動が、うまくシンクロしないと歌っている。この歌の中で「シンクロ」が上手に使われていて、悩む姿をよく表現している。

国民は戦争なんかしたくない突っ走るなよ日本政府  
立命館慶祥中学校 2年 加藤雅大

【講評】

世の中の出来事を歌った。このような「時事詠」も作ってみることも大切である。この歌は、作者の考えが明確に出ている。下の句の「突っ走るなよ日本政府」は中学2年生の警鐘と捉えたい。

陽を浴びてきれいに花咲くひまわりよ種の数だけ未来が育つ  
立命館慶祥中学校 2年 長野 超

【講評】

きれいに花が咲いている様子の上の句から一転して「種の数だけ未来が育つ」と歌った下の句。この発想が面白く、見事であり、歌としても落ち着いた作品になっている。

盂蘭盆で迎え火揺らす風が吹き今亡き人への思いを運ぶ  
立命館慶祥中学校 3年 土田京佳

【講評】

迎え火の時、風で火が揺れたのは、亡き祖先の霊が帰ってきたと考えて、亡き人を思っているという歌。盂蘭盆で、今も続いている儀式の厳かさがよく出ている歌である。

### 高校生の部

帰り道石を蹴って過ごした日不安も涙も蹴り飛ばそうか  
北海道旭川工業高等学校 3年 坂上樹輝也

【講評】

不安も涙も石と一緒に蹴り飛ばそうかと言っているのである。高校三年生には将来のことなどさまざまな悩みがあるのであろう。下の句にはそのような気持ちを吹き飛ばそうという前向きな姿が見られる。

近くとも遠い存在君の背は追いかけるたびぼやけて見える  
北海道江別高等学校 2年 久保颯斗

【講評】

身近な所にいるはずの「君」とのコミュニケーションが、うまくとれないということだろう。「追いかけるたびぼやけて見える」は説得力のある、良い表現である。

反対と賛成の声入り交じる不安な未来安保法案  
北海道江別高等学校 2年 畑中柚乃

【講評】

その時の出来事を歌っている時事詠である。安保法案を題材にしているが、説明だけでなく、「不安な未来」と四句目に自分の考えを入れている所が素晴らしい。

広島のアスファルトには曇気楼涙あふれる八月六日  
北海道小樽工業高等学校 1年 佐藤翔太

【講評】

七十年前の八月六日の原爆投下の日も暑い日だったようである。上の句の現在の広島の様子、下の句の抑えた感情表現が見事である。八月六日を忘れてはいけないという呼びかけとも受け取れる。

風が吹きゆるる黒髪ワンピース後ろ姿に立ちつくす僕  
北海道小樽工業高等学校 2年 齋藤瑠夏

【講評】

好きな人とどこかの高台で街の景色でもみているのだろう。淡々と歌っているが、言葉が吟味されている。情景とその場の作者の気持ちがよく伝わってくる優れた一首である。

漆黒を無数に照らす星星を結んで作る自分の星座  
北海道小樽工業高等学校 2年 佐藤純也

【講評】

漆黒を照らす星を結んで、自分の星座を作るという発想が先ず面白い。五七五・七七のリズムもピタリで、たいへん優れた歌になっている。

不安から信じる気持ち見失い別れを告げた最低なウソ  
北海道釧路北陽高等学校 1年 佐藤沙羅

【講評】

深い後悔の念を読む者にも感じさせる歌である。一読すれば、何が原因でどうなったかがよくわかる程、よくまとめられた歌である。「最低なウソ」が強い言葉で迫ってくる。

指先に思いをのせて書いた夢あの日の自分にもらった勇気  
北海道釧路北陽高等学校 1年 前田梨沙

【講評】

何を書いたのかがもう少しわかると、読む方も、さらに理解することができると思った。「あの日」に自分の夢を書くことで勇気をもらった喜びがよく伝わって来る歌になっている。

亡くなった母の遺影に目を向けた母が微かに微笑んでいた  
北海道釧路北陽高等学校 1年 三上龍之介

【講評】

自分の行動と思いを素直に表出して、悲しみの伝わる一首になった。「母」が二度使われているが、気になることはなかった。「微かに」がよく効いている。

あなたとの距離の長さはメルカトル早く見つける大圏航路  
北海道釧路北陽高等学校 1年 山口宏太

【講評】

自分と「あなた」の間には、メルカトル図法の地図上の遠く離れた二地点のような隔りがある。早く最短距離を見つけて近づきたいということである。「メルカトル」が、この歌

の中で生きている。

過ぎてゆく後悔だらけの one day に時よもどれと魔法をかける

北海道滝上高等学校

3年

寺本 椿

【講評】

意味もよくわかるよくできた歌と思う。「one day」により、平凡になりそうだった上の句が救われて、うまく下の句に繋がっている。

会いたいなあなたを想う夏休みいつもは辛い授業が恋しい

北海道富良野高等学校

1年

高橋真愛

【講評】

夏休みで会えない「あなた」への思いが、素直に表現されている。下の句の「いつもは辛い授業が恋しい」は、よく気持ちの出ている表現である。

今日までの無知な私は淡水魚あなたの餌付けで色づいていく

北海道富良野高等学校

1年

成田彩花

【講評】

発想が面白く魅力的な一首。無知な淡水魚の「私」が「あなたの餌付けで」どう変化して行くのだろう。いろいろと想像させる一面も持っている。

君のほう君のほうへと向く僕は一途な思い向日葵のよう

北海道南富良野高等学校

1年

稲場滉人

【講評】

向日葵が、日に向かって咲くように、自分も君の方をいつも向いていると歌っている。「一途な思い向日葵のよう」は自分をからかっているとも取れる。なかなか自在に作られている。

諦めない輝く栄光つかむまで最後の夏がプレイボール

北海道女満別高等学校

3年

齋藤恒太

【講評】

作者は高校野球の選手であろうか。「輝く栄光」とは、甲子園での優勝と思われる。高校生最後の夏に向かったの気合の感じられる歌になっている。